

(様式2)

### 科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	1. 職務の理解（6時間）	
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)多様なサービスの理解	1.5	【講義】介護保険サービス（居宅・施設）、介護保険外サービスについて講師による講義を行った後、視聴覚教材を活用し、それぞれのサービスの特色を理解する。
〃	1.5	【演習】地域で実際に行われている介護保険サービス、介護保険外サービスを題材にして、サービス利用者の状態像や利用方法、家族の対応などについてグループディスカッションで理解を深める。
(2)介護職の仕事の内容や働く現場の理解	1.5	【講義】居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容について講師による講義を行った後、視聴覚教材を活用し、それぞれの仕事内容を具体的にイメージする。
〃	1.5	【実習】ケアプランの位置付けに始まりサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について実際のサービス提供現場（居宅介護支援センター、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム）を見学し、具体的なイメージをつかむ。
合計時間数	6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）	
到達目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)人権と尊厳を支える介護	3.0	【講義】人権と尊厳の保持、介護分野におけるICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度などについて講師による講義を行い、サービス提供にあたってやってはいけない行動などを理解する。
〃	1.5	【演習】「尊厳」、「高齢者虐待」に関して講師から具体的な事例を複数示し、このことに関するグループ討議を通して、尊厳の概念に対する気づき、高齢者虐待に対する理解を深める。
(2)自立に向けた介護	3.0	【講義】自立支援、介護予防について講師による講義を行い、サービス提供にあたっての基本的視点について理解する。
〃	1.5	【演習】「自立支援と介護予防」、「自立支援と重度化防止」に関して講師から事例を複数示し、このことに関するグループ討議を通して、自立の概念に対する気づき、自立支援や重度化の防止、遅延化に資するケアへの理解を深める。
合計時間数	9.0	

(様式2)

### 科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	3. 介護の基本（6時間）	
到達目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 また、介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)介護職の役割と多職種との連携	1.5	【講義】介護環境の特徴、介護の専門性、介護に係る職種について講師による講義を行い、介護職に求められる専門性について理解する。 【演習】介護の専門性などについて、出来るだけ具体例を挙げいただき、グループ討議の中で専門性に対する理解を深める。
(2)介護職の職業倫理	1.5	【講義】専門職の職業倫理などについて講師による講義を行い、職業倫理の重要性を理解する。 【演習】介護職の職業倫理などについて、出来るだけ具体例を挙げいただき、グループ討議の中で利用者や家族等に関わる際の留意点等やポイントについての理解を深める。
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	【講義】介護における安全の確保、事故の予防、安全対策、感染対策について講師による講義を行い、生活支援の場に出合う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを理解する。 【演習】介護におけるリスクなどについて、出来るだけ具体例を挙げいただき、グループ討議の中で介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性などの理解を深める。
(4)介護職の安全	1.5	【講義】介護職の心身の健康管理について講師による講義を行い、介護職がおこりやすい健康障害や受けやすいストレスなどを理解する。 【演習】腰痛予防体操やストレス解消法、手洗いやうがいの実際などを演習し、健康の維持・管理手法を学ぶ。
合計時間数	6.0	

(様式2)

### 科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)介護保険制度	1.5	【講義】介護保険制度創設の背景及び目的と動向、制度の仕組みの基礎的理解、制度を支える財源、組織、団体の機能と役割について講師による講義を行い、生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解する。
〃	1.5	【演習】研修施設における介護保険サービスの利用状況や介護報酬収入、利用者負担などを講師から説明し、グループ討議を通して介護保険制度の財源構成や保険料負担などの大枠の理解を深める。
(2)医療との連携とリハビリテーション	1.5	【講義】医療行為と介護、看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について講師による講義を行い、多職との連携について理解する。
〃	1.5	【演習】医療と介護とリハビリテーションの専門職の役割や責務をグループ討議で出し合い、その連携の重要性について理解を深める。
(3)障害者自立支援制度及びその他制度	1.5	【講義】障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要について講師による講義を行い、制度の仕組みとその財源などについて理解する。
〃	1.5	【演習】各種制度の代表的なサービスの種類や内容、利用の流れを講師から説明し、グループ討議を通してどのように利用者支援に役立っているか理解を深める。
合計時間数	9.0	

(様式2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）	
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初心者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)介護におけるコミュニケーション	1.5	【講義】介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割のほか、技法や道具を用いた言語的コミュニケーション、コミュニケーションの実際などについて講師による講義を行い、共感や受容、傾聴的態度、気付きなど基本的なコミュニケーション上のポイントを理解する。
〃	1.5	【演習】利用者と相談者に分かれてコミュニケーションを行わせ、そのことを通じて、利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由などについて考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることの理解を深める。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	【講義】記録における情報の共有化、報告、コミュニケーションを促す環境について講師による講義を行い、記録の機能と重要性などを理解する。
〃	1.5	【演習】介護現場における記録（介護日誌など）などの事例を基にグループ討議を行い、その中でチームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性について理解を深める。
合計時間数	6.0	

(様式2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	6. 老化の理解 (6 時間)	
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)老化に伴う こころとからだ の変化と日常	1.5	【講義】 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について講師による講義を行い、加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について理解する。
〃	1.5	【演習】 グループの中で、高齢者に多い心身の変化などを挙げていただき、講師からその対応についての留意点などを説明し、介護における生理的側面の理解を深める。
(2)高齢者の健康	1.5	【講義】 高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について講師による講義を行い、高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、および高齢者の疾病による症状や訴えについて理解する。
〃	1.5	【演習】 グループの中で、高齢者に多い疾病の症状などを挙げていただき、講師からその対応についての留意点などを説明し、介護における生理的側面の理解を深める。
合計時間数	6.0	

(様式2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	7. 認知症の理解（6時間）	
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)認知症を取り巻く状況	1.5	【講義】認知症ケアの理念について講師による講義を行い、認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解する。 【演習】講師から認知症事例を示し、対応策などを話合うことを通じて認知症の利用者の心理・行動などについて理解を深める。
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	【講義】認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について講師による講義を行い、認知症の中核症状と行動・心理症状等の基本的特性、およびそれぞれに影響する原因について理解する。 【演習】具体的なケース事例を示し、その原因を探ることを通じて、認知症の利用者の心理・行動などについて理解を深める。
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	【講義】認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への理解について講師による講義を行い、認知症の利用者とのコミュニケーションの原則などを理解する。 【演習】具体的なケース事例を示し、その原因を探ることを通じて、認知症の利用者とのコミュニケーションの原則などの理解を深める。
(4)家族への支援	1.5	【講義】認知症の受容過程での援助などについて講師による講義を行い、家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて理解する。 【演習】複数の具体的なケース事例を示し、認知症のその家族への支援について理解を深める。
合計時間数	6.0	

(様式2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	8. 障がいの理解 (3 時間)	
到達目標	障がいの概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)障がいの基礎的理解	1.0	【講義】障がいの概念と I C F、障害者福祉の基本理念について講師による講義を行い、I C F の分類と医学的分類などについて理解する。
(2)障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.0	【講義】障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識について講師による講義を行い、各障がいの内容、特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について理解する。 【演習】複数の具体的なケース事例を示し、グループ討議を通して高齢者の介護との違いやそれぞれの障がいの特徴と介護上の留意点について理解を深める。
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1.0	【講義】家族への支援について講師による講義を行い、家族の心理、かかわり支援について理解する。
合計時間数	3.0	

(様式2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（78時間）	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 また、尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。	
I. 基本知識の学習 (1)介護の基本的な考え方	12.0 (3.0)	【講義】理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護について講師による講義を行い、ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除などについて理解する。
”	(1.0)	【演習】理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護について、事例を使って我流介護についてグループ討議を行うとともに、介護者の身だしなみや利用者への声掛けについて実習を行い、介護の基本的な考え方の理解を深める。
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2.0)	【講義】こころの仕組みの基礎について講師による講義を行い、主だった状態像の高齢者の生活を理解する。
”	(2.0)	【演習】高齢者向け生きがい感スケールを作成していただき、グループ討議を通じて介護の基本的な考え方の理解を深める。
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(2.0)	【講義】からだの仕組みの基礎について講師による講義を行い、主だった状態像の高齢者の生活を理解する。
”	(2.0)	【演習】ボディメカニクスの基本原理を確認し、実際に実技演習などを行うことで介護の基本的な考え方の理解を深める。

Ⅱ．生活支援技術 (4)生活と家事	48.0 (3.0)	【講義】家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について講師による講義を行い、家事援助の機能と基本原則について理解する。
”	(2.0)	【演習】複数のサービスの提供例を紹介し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術などについて、健康チェックやシーツ交換など生活支援技術等の演習を行い、生活支援技術の理解を深める。
”	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて家事援助の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(5)快適な居住環境整備と介護	(3.0)	【講義】快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境と福祉用具に関する留意点と支援方法について講師による講義を行い、快適な居住環境の整備について理解する。
”	(3.0)	【演習】複数のサービスの提供例や実際に福祉用具を紹介し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術などについて用具などを使って生活支援技術等の演習を行い、生活支援技術の理解を深める。
(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】整容に関する基礎知識、整容の支援技術について講師による講義を行い、装うことや整容の意義、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことについて理解する。
”	(2.0)	【演習】複数のサービスの提供例を紹介し、視聴覚教材や用具を使って衣服着脱の介護など生活支援技術の演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
”	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて整容援助の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について講師による講義を行い、体位の変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機械さまざまな車椅子、杖などの基本的使用方法などを理解する。

〃	(2.0)	【演習】複数のサービスの提供例を紹介し、ベッドや用具などを使ってベッド上での移動やベッドから車いすに移乗についての生活支援技術の演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
〃	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて移動・移乗援助の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事環境の整備・食事と社会参加の留意点と支援について講師による講義を行い、食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法や食事にに関するからだのしくみなどを理解する。
〃	(2.0)	【演習】複数のサービスの提供例を紹介し、視聴覚教材や用具などを使って食事の介助や口腔ケアなど生活支援技術の演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
〃	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて食事（経管栄養・コーヒタイムなど）の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(9)入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】入浴、清潔保持に関連した基礎的知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について講師による講義を行い、入浴や整容の意味と入浴を取り巻く環境整備の方法や入浴に関するからだのしくみなどを理解する。
〃	(2.0)	【演習】複数のサービス提供事例を紹介し、視聴覚教材や用具などを使って入浴の介護や清拭など生活支援技術の演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
〃	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて入浴、整容の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】排泄に関連した基礎的知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について講師による講義を行い、排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備の方法や排泄に関するからだのしくみなどを理解する。

〃	(2.0)	【演習】複数のサービスの提供例を紹介し、視聴覚教材や用具などを使って排泄の介護やおむつ交換など生活支援技術の演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
〃	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて排泄の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(3.0)	【講義】睡眠に関連した基礎的知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について講師による講義を行い、睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備の方法や睡眠に関するからだのしくみなどを理解する。
〃	(2.0)	【演習】褥瘡予防についての演習を行い、生活を支える技術の根拠について理解を深める。
〃	(1.0)	【実習】特別養護老人ホームにおいて睡眠の生活支援を見学し、サービス提供現場の具体的なイメージをつかむ。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(3.0)	【講義】終末期に関する基礎的知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について講師による講義を行い、ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携について理解する。
〃	(3.0)	【演習】グループに分かれて、「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について話し合いを行い、尊厳ある死についての理解を深める。
Ⅲ. 生活支援技術演習 (13) 介護過程の基礎的理解	12.0 (3.0)	【講義】介護過程の基礎的理解について講師による講義を行い、介護過程の目的、意義、展開と介護過程のチームアプローチについて理解する。
〃	(3.0)	【演習】テキストの事例についてグループ討議を行うとともに、観察などについて演習を行い、サービスの展開とチームアプローチについて理解を深める。

(14)総合生活 支援技術演習	(6.0)	<p>【演習】次の事例を提示し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ところとからだの力が発揮できない要因の分析</li> <li>② 適切な支援技術の検討</li> <li>③ 支援技術の演習</li> <li>④ 支援技術の課題</li> </ul> <p>について演習を行い、生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れを理解するとともに、技術を習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を修得する。</p> <p>事例は、次の中から2例を講師が選択し示す。  (事例1：要支援2程度、事例2：認知症、事例3：片麻痺、事例4：座位保持不可)</p>
合計時間数	78.0	

(様式2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	10. 振り返り（4時間）	
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、終業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
項目名	時間数	学習内容
	通学	
(1)振り返り	2.0	【講義】研修全体を振り返り、講師から必要な補足説明等を行い、受講者全員に「振り返り」の感想文を書いていただく。
〃	1.0	【演習】在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る。」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節など）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護が行えるよう理解を深める。
(2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1.0	【講義】研修施設のOJTやOFFJTなどを講師から紹介する。また、研修で学んだことや今後学びたいこと、振り返り（感想文）を受講者一人ひとりに発表していただき、今後何を継続的に学習すべきかを理解する。
合計時間数	4.0	